



2月4日は立春、暦の上では春の訪れとなりますが、まだまだ寒さ厳しい毎日です。先月24日は、この冬一番の非常に強い寒気の影響で、京都府内は夕方から各地で大雪となり、道路の通行止めや列車の立ち往生等、交通機関にも大きな影響がありました。雪への備えがどうだったのか課題点が多く報道されていましたが、避難所の開設や地域の飲食店からのあたたかい食べものの差し入れがとてありがたかったといった、人の優しさに心が温まるニュースもありました。本校においても、通学路や校門付近の除雪、凍結防止剤の散布等、安全協力員の方々をはじめ、地域の方々に大変お世話になりました。子どもたちが安全に過ごせるのも、学校を支えていただいている多くの皆様のおかげだと改めて実感します。

「おかげさま」という言葉は、感謝を伝える言葉としてよく使われますが、漢字で書くと「お陰様」となり「神仏的な加護や助けを受ける」という意味の「お陰」に「様」が付いた仏教的な言葉が語源だそうです。木陰で、夏の照りつける日差しや雨をしのぐことはできますが、そのために木陰ができるわけではありません。それでも木に「ありがとう」と感謝する気持ちを持ちたいですし、そう思うことで自分自身もとても穏やかな気持ちになれる気がします。私たちの生活は、特別なことが起こったときだけでなく、常に多くの人の大きな支えて成り立っていますが、普段はなかなかそのことに気づけないものです。「お陰様」の気持ちで、よく見れば、よく考えれば、自然と感謝の気持ちが出てくるのではないのでしょうか。「お陰様」という素敵な言葉を大切にしたいと、大雪をとおして改めて学んだ気がします。

さて、今年度も残り2ヶ月となり、学年のまとめに向けて学習に臨んでいます。本校では、今年度、言語活動を大切に取組を進めてきました。

1つ目は、読書です。全校でも、学年でも取組を進めてきました。本をとおして様々な人の考え方や生き方に出会ったり、実際の世界では体験できないことを体験したり、新しい知識を得たり等学ぶことはたくさんあります。読解力の基盤となる語彙を増やすことや豊かな気持ちを育むことができるのも読書の良さだと思います。学校司書やボランティアの方々に読書環境を整えていただき、図書委員会の子どもたちも、読書活動を進めようと楽しい取組を考えてくれています。

2つ目は、新聞です。子どもたちが持っているiPadで、毎日新聞を読むことが、本校の日常の一コマになってきました。様々な記事を見ているだけでも、社会の出来事や動きを知ることにつながりますし、最近では子どもたちが「その話、新聞に書いてあった」と話をしてくれることもあります。

3つ目は「書く」ことに力を入れてきました。それぞれの学年に応じた取組の他に、全校で週に1回詳徳小タイムの時間を使って、新聞記事の要旨をまとめたり、感想を書いたりといった問題に継続して取り組んでいます。文章を読んでどう感じたか、何を考えたのかまとめることで、書く力だけでなく、読む力を高めることに繋がると考えています。

他にも様々な取組を進めてきましたが、上記した3つのことは習慣化することが大切だと考えています。日常生活の中に自然に本があり、様々な社会の出来事に興味や自分の考えを持つことが「お陰様」の気持ちとともに当たり前になることを願っています。

亀岡市立詳徳小学校長 平井 眞理子

給食週間の取組

1月23日(月)～27日(金)の給食週間にあわせて、健康委員会の児童がミニ集会で「もったいない怪獣をやっつけろ」という紙芝居を読みました。本来食べられるのに捨てられてしまう食品について触れ、必要な分だけ食材を購入したり賞味期限や消費期限内に食品を食べきったりすることの大切さを学びました。また、日頃お世話になっている配膳員さんや給食センターの皆さんに感謝の気持ちを込めた手紙を書き、プレゼントしました。

